

第48回 国際福祉機器展 H.C.R. 2021 報告

1 | オープニング映像

H.C.R. 2021では、感染症予防対策に留意し、会場内のモニターへ映像を投影するというかたちでオープニングを実施しました。

最初に、H.C.R.心像として「ともに生きる豊かな社会の実現」をテーマに、雄大な自然・人・街並みが一体となって織りなす美しい映像をご来場の皆様にご覧いただきました。その後、全国社会福祉協議会 清家 篤会長のあいさつ映像が放映され、「第48回国際福祉機器展 H.C.R. 2021」が幕を開けました。

清家会長は、コロナ禍において厳しい状況が続くなかで日々取り組んでこられた福祉関係者の皆さまへ敬意と感謝の意を表すとともに、福祉機器の発展を実感できる展示会として情報発信していくH.C.R.の役割を述べ、開会を宣言しました。

日時	2021年11月10日 (水) 9:45~
----	-----------------------



H.C.R. 心像



清家 篤 全国社会福祉協議会会長

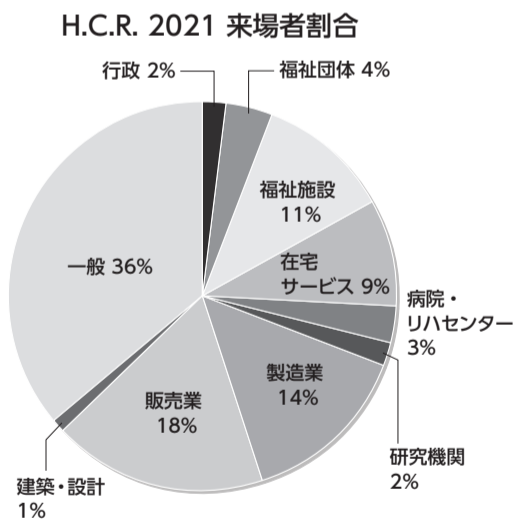
2 | 来場者数・来場者割合

来場者数は、会期3日間で、延べ39,647人にのぼりました。

来場者の割合としては、一般が36%と一番多く、次いで販売業が18%という割合となりました。

例年では販売業の割合がもっとも多いという傾向でしたが、本年は福祉機器利用者やその家族、福祉を志す学生の方などの姿が多くみられました。

さらに続いて製造業14%、福祉施設等の11%、在宅サービス9%、の順となりました。



3 | 出展社数

出展社数は、リアル展・Web展合わせ国内外から207社・団体が出展しました。東京2020オリンピック・パラリンピックの影響により、H.C.R.の初めての会場として東京ビッグサイト青海展示棟へと会場を移し、規模は前回 (H.C.R. 2019) の2分の1程度となりました。

会場面積の制限などにより、リアル展の出展社募集を早期に締め切るなど、例年とは異なる展示環境となりました。さらに、H.C.R. 2021よりWeb展とのハイブリッド開催という新たな取り組みを行いました。

なお、海外出展社においては、新型コロナウイルスの影響を鑑みて参加を見送られる企業・団体が少なからずありました。

国名	出展社数
アメリカ	4
シンガポール	1
スウェーデン	1
中国	1
日本	200

※国名50音順

❖ 製品別出展社数

H.C.R. 2021では、下記一覧の製品が多数展示されていました。

製品別出展社数一覧

移動機器 (車いす等)		建築・住宅設備	
手動車いす	14	スロープ	5
車いす関連用品	19	手すり	12
電動車いす	5	エレベーター	1
電動三輪・四輪車	1	段差解消機	1
自転車	1	階段昇降機	4
介助車	4	建築・住宅設備 (その他)	10
移動機器 (杖、歩行器等)		リハビリ・介護予防機器	
歩行器、歩行補助車	14	歩行等訓練機器	1
杖	11	リハビリ用教材・機器	9
移動機器 (リフト等)		筋力トレーニング機器、身体機能訓練機器	8
ストレッチャー等移動器具	3	口腔ケア用品	5
移乗補助機器	5	義肢、装具	
床走行リフト	9	義肢、装具	4
固定式・据置式リフト	5	日常生活支援用品	
介助・歩行補助ロボット	4	自助具	3
福祉車両、関連機器		障害者スポーツ・レクリエーション用品	1
障害者用自動車運転装置	4	介護関連用品	9
車いす等用福祉車両	4	日常生活支援用品 (その他)	9
福祉施設等業務用自動車・エコカー	2	介護等食品、調理器具	
ベッド用品		食事用品、食器	2
ベッド	6	キッチン	1
マットレス、床ずれ防止製品	12	福祉施設環境設備・用品	
ベッド用品 (その他)	9	施設建築、施設用床材・壁材	1
入浴用品		洗濯機、乾燥機、掃除機、脱臭機	1
浴槽	8	いす、座位保持・立ち上がり補助用品	5
入浴用チェア	6	家具、テーブル、洗面台	9
滑り止め用品	3	防災・避難用品	3
浴槽台	3	介護職員用衣類	2
入浴用リフト	6	福祉施設環境設備・用品 (その他)	8
入浴用品 (その他)	5	感染症等予防用品	
トイレ・おむつ用品		空気清浄機、加湿器、消毒器	4
ポータブルトイレ	6	感染症等予防用品 (その他)	12
便器、便座	3	在宅・施設サービス経営情報システム	
防臭剤、消毒剤	3	福祉事業関係コンピュータシステム	19
トイレ関連用品	6	出版、福祉機器情報	
おむつ関連用品	5	福祉・介護・リハビリ・保健関係書籍・教材、情報誌、新聞、放送通信、福祉機器関連webサイト	15
自動排泄処理装置	1	製品別出展社数計	400
衣類・着脱衣補助用品			
衣類	5		
靴	5		
着脱衣補助具	1		
コミュニケーション・見守り機器			
福祉電話・FAX、携帯電話補助器	2		
視覚障害者用誘導システム	2		
緊急通報・見守り装置	19		
障害者用OA機器、ソフトウェア、操作補助具	2		
障害者用AV機器	1		
コミュニケーション関連ロボット	2		
コミュニケーション・見守り機器 (その他)	10		

❖ 感謝状贈呈式

出展社の中から、H.C.R. 2021で15回目の出展を迎えられた下記5社を対象に、会期初日の11月10日 (水)、各出展社の展示ブースにて本会理事長より感謝状と記念品の贈呈を行いました。

15回目の出展を迎えられた出展社

- ・(国研) 情報通信研究機構
- ・(株) シンエンス
- ・濱田産業 (株)
- ・(株) ピーイーエス
- ・(株) メディカルプロジェクト

※社名50音順



4 | H.C.R.特別企画

1 子ども広場～子どもの福祉機器と相談コーナー～

障害のある子ども向けの福祉機器の開発・普及や、子育てを支援し療育の不安を解消することなどを目的に下記4つのコーナーを開設しました。

(運営協力：横浜市総合リハビリテーションセンター)

❖福祉機器展示コーナー

子ども向けの福祉機器や、子育て・療育に係る保護者の負担を軽減する福祉機器の展示と製品説明を行いました。

〈展示製品カテゴリー〉

- 車いす
- バギー・歩行器
- いす・カーシート
- 入浴・トイレ用具／家具
- 食事用具・食器／衣類・靴
- 介護ロボット
- 学習・訓練機器／コミュニケーション機器

❖相談コーナー（療育相談／福祉機器／介護ロボット）

「療育」「福祉機器」「介護ロボット」などについて、下記の日時に各分野専門の相談員を配置し、無料で相談に応じました。

【11月10日(水)・11日(木)】 11:00 - 12:00、13:00 - 14:30、15:00 - 16:00

【11月12日(金)】 11:00 - 12:00、13:00 - 14:30

❖現在も未来も大切です！子どもの住まい

(肢体不自由・医療的ケア、知的障害、発達障害) 相談コーナー

子どもの住宅改造事例をパネルやリーフレットで紹介し、リハビリテーションセンターの建築士が下記の日時において相談に応じました。

また、2021年度は「住まいの音環境対策」をテーマにした新作パンフレットの配布を行いました。

【11月10日(水)】 11:00 - 12:00、13:00 - 14:30



❖ひとやすみコーナー

保育士が常駐し、おもちゃを使って子どもたちと遊んだり、保護者の方の相談やお話をしたりできる場としました。

(運営協力：東京都社会福祉協議会保育部保育士会)



2 日常生活支援用品コーナー

「新しい日常・多様なニーズ ～伝わる マスク展～」

生活様式が一変した今、障害のある人たちがどんな不便を感じ、どんな工夫をし、どんなことを望んでいるかを、調査結果をもとにパネル展示しました。

また、コミュニケーションを深めるためのさまざまな工夫が施されたマスクとその関連製品を展示するとともに、ブースにご来場いただいた方を対象に「マスクを使用するとき不便を感じること」「今後あったらいいと思うマスク」などといった、新しい日常においてマスクにどのような配慮が必要かを把握するため、製品の聞き取り調査を実施しました。

(運営協力：公益財団法人 共用品推進機構 ほか)



3 ふくしの相談コーナー

● 自助具相談コーナー／自助具製作体験コーナー

技師などの専門家が、自助具に関わる来場者の相談に無料で応じました。

さらに、「自助具製作体験コーナー」として、ストローホルダーとグリップ付きスプーンという2種類の自助具の製作体験を11月10日(水)・11日(木)に計4回実施し、自助具に関する理解を深めました。

(運営協力：NPO 法人 自助具の部屋)



● 福祉機器相談コーナー

作業療法士の知見を活かし、来場者の相談内容に沿った機器の紹介と、出展社ブースの案内・H.C.R.のWeb展の情報やカタログ情報のご紹介など、相談者の意向にあわせて課題解決のための情報を提供するなど、無料で相談対応を行いました。

(運営協力：一般社団法人 日本作業療法士協会)

4 被災地応援コーナー

東日本大震災や熊本地震など災害に見舞われ、復興に取り組みながら生産活動パネルに取り組む障害者就労支援施設・事業所(セルプ)の製品を販売しました。

また、被災した当時の心境や現在の状況、職員の方からのメッセージなど、各地の障害者就労支援施設や事業所から寄せられたさまざまな声をまとめ、パネル展示しました。

(運営協力：NPO法人 日本セルプセンター)



5 国際福祉機器展Web2021 紹介コーナー

H.C.R.のWeb展をその場で体験できるようにパソコンを設置し、Web展で閲覧可能なWebセミナーのご紹介や、出展社／製品検索機能を使って出展社や製品を検索してから実際のブースに足を運べるなど、Web展の活用方法をご紹介しました。



5 | H.C.R.セミナー

福祉サービスを利用されている方々やそのご家族、保健・福祉・介護の関係者、企業関係者などの来場者向けに、関連する制度の動向や課題、福祉サービスの質の向上や施設の経営をめぐる最新の情報などを提供する場として、H.C.R.セミナーをリアル展／Web展でそれぞれ開催しました。

(1) 一般、福祉サービス利用者・家族向け

① はじめての福祉機器 選び方・使い方セミナー **リアル展**

(Webでの同時配信・アーカイブ配信を実施)

福祉機器をはじめて選び、使用する際には、機器の特徴をとらえつつ、利用者にあった機器の選定をすることが重要となります。そうした福祉機器の適切な選び方・使い方のポイントを、3日間にわたり各講師陣がわかりやすく解説しました。

〈選び方・使い方セミナー〉

11月10日(水)	住宅改修編	トイレ・排泄用品編 NPO法人 日本コンチネンス協会 牧野 美奈子 氏
		住宅改修編 東京都立大学 大学院 人間健康科学研究科 准教授 橋本 美芽 氏
入浴機器編 高齢者生活福祉研究所 所長/理学療法士 加島 守 氏		
	福祉施設向け	福祉施設におけるICT活用編 株式会社ビーブリード 代表取締役 竹下 康平 氏
11月11日(木)	基本動作編	ベッド編 福祉技術研究所株式会社 代表取締役 市川 洸 氏
		リフト等移乗用品編 福祉技術研究所株式会社 代表取締役 市川 洸 氏
		杖・歩行器等補助用品編 高齢者生活福祉研究所 所長/理学療法士 加島 守 氏
		車いす編 公益財団法人 武蔵野市福祉公社 作業療法士 堀家 京子 氏
11月12日(金)	自立支援編	福祉に役立つ情報機器・電子機器編 早稲田大学 人間科学学術院 教授 巖淵 守 氏
		福祉車両編 国立障害者リハビリテーションセンター自立支援局 第二自立訓練部肢体機能訓練課自動車訓練室長 熊倉 良雄 氏
		目白大学 保健医療学部 理学療法士学科 田中 亮造 氏
		自助具編 ヒューマン 代表 岡田 英志 氏

特に「福祉施設におけるICT活用編」においては、福祉施設等関係者に向けたICT機器の導入と選定のポイントについて解説しました。講師の竹下氏は、ICTの導入時には生産性の一時的な低下が生じることにふれ、継続的かつ効果的なICT機器の活用のためには事前に環境を整えることの重要性や、計画と目的を職員が共有することの大切さを述べました。

本テーマでの選び方・使い方セミナー実施は初めてであり、参加者からは「現場へのICT導入時に参考にしたい」「ICT導入をするときに必要な考え方がわかった」などのお声をいただきました。



②AI・DX時代の福祉とICT

～最新ICTの紹介とその傾向～ Webセミナー

講師：巖淵 守 氏 / 早稲田大学人間科学学術院 教授

近年身近になりつつあるアプリや、スマートスピーカーといったICTなどの最新の情報やその活用方法を紹介するとともに、そうした技術の進化を福祉の場にどう役立てていけるのかという視点から解説しました。また、障害のある人に生活の中での実装の様子を語っていただきつつ、将来も含めたICT機器活用の可能性について提示しました。

巖淵氏は、スマートスピーカー等のICTやAI搭載機器を導入することで、「人の支援」の本質を高める働きもあり、障害のある人が自立した生活を送るために活用することの有効性を述べました。



③認知症の人を地域で支える Webセミナー

講師：矢吹 知之 氏 / 福祉社会法人 東北福祉会
認知症介護研究・研修仙台センター 研修部長

当事者の声や統計データをふまえ、現状の日本社会における認知症の人やその家族が抱える障壁を指摘しつつ、認知症の人にやさしいまちづくりのポイントや、認知症の人が地域であたりまえに生活するためのさまざまな具体的な取り組みを多様な視点からご紹介しました。

矢吹氏は、「認知症になったから」という考えを転換し、「認知症だからこそできる」という考えに立つことや、認知症の人が地域で役割をもつことが大切であると述べ、そのためには「外出」「参加」「交流」を作ることの重要性を指摘しました。



④障害者の自立と社会参加の検証 Webセミナー

講師：野澤 和弘 氏 / 植草学園大学 副学長・
発達教育学部 発達支援教育学科 教授

国連・国際障害者年40周年にあたり、障害のある人の権利擁護に関するこれまでのわが国の課題をふまえて、検証を行いました。

野澤氏は、今後、「地域共生社会」の形成に向け、障害者の社会への参画がより発展していくことと、そのための支援が波及していくことへの期待を述べました。

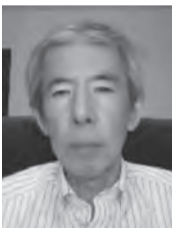


⑤誰も排除しない社会へ

～ポスト・コロナの新しいセーフティネット～ Webセミナー

講師：宮本 太郎 氏 / 中央大学法学部 教授

本セミナーでは、コロナ禍において「新しい生活困難層」が増大し、新しいセーフティネットの必要性が高まっていることを指摘し、全世代型の保障を考えるための視点や重層的な支援体制づくりとして、相談支援、参加支援、多様な就労機会、居場所づくりの事例等を交えて要点を解説しました。



⑥住民主体のまちづくりはいかにしてなされたか

～大規模災害からの復興～ Webセミナー

講師：小野 竹一 氏 / 宮城県東松島市あおい地区会 会長

東日本大震災の被災後、集団移転先で住民が主体となって「日本一のまちづくり」をすすめた「東松島市あおい地区」の事例を紹介しました。住民どうしによってルールを定めながら、見守りの仕組みをつくりあげ、生活向上につなげた様子を、小野氏に当時の状況を振り返りつつ語っていただきました。



(2) 福祉職・介護職向け

①地域共生社会の実現に向けた地域づくり Webセミナー

講師：笹子 宗一郎 氏 /

厚生労働省老健局認知症施策・地域介護推進課 課長

高齢者人口がピークを迎える2040年頃を見据えつつ、人生100年時代が謳われ、また、一方で人口減少や社会の担い手不足がさらに現実となっていくなか、生涯現役社会の構築をめざす施策や体制づくりを福祉の視点から紹介しました。

また、地域の中で生きがいを持ち生活していくうえでのさまざまな支え合いのための社会資源等を紹介し、地域共生社会を築いていくための展望を示しました。



②新型コロナウイルスクラスター発生現場から見たこと

～支援現場で求められる対応～ Webセミナー

講師：大友 達也 氏 / 社会福祉法人あすなろ学園 障害者支援施設母原 事務局長

実際に感染症が発生した障害者支援施設の関係者から、クラスター発生当時の状況や対応、経験を振り返りつつお話しいただきました。感染症対策の実態や対応のあり方、日常的な対策、業務の改善、今やるべき今後の備え、感染症拡大を最小限に抑えるための気づきなど、コロナ禍でエッセンシャルワーカーとして利用者支援に努める施設職員等へ向け情報を提供しました。



(3) 福祉機器の開発・販売メーカーの方向け

福祉機器メーカーと福祉専門職との連携・協働のあり方 Webセミナー

講師：富板 充氏／
社会福祉法人名古屋市総合リハビリテーション事業団
なごや福祉用具プラザ 作業療法士

富板氏は、作業療法士としての知見や経験をふまえ、過去の事例において利用者の主訴が真のニーズと異なることがあることを指摘し、機器の適合には、利用者の「環境」「ニーズ」「目的」などのポイントを押さえた広い視点で適合を行うことの重要性を述べました。

また、作業療法士などの福祉専門職が、そうした利用者の真のニーズを的確に受取り、メーカーにその声を正しく反映させるという、専門家とメーカーの連携・協働のあり方について解説しました。



6 | 国際シンポジウム

英国のヘルスケア状況と、日本における健康寿命へのアプローチ

H.C.R.では、例年わが国と海外に共通した福祉・介護分野の課題について、諸外国から招いた専門家による報告を基にした「国際シンポジウム」を開催しています。

2021年は、H.C.R.リアル展会場での開催とせず、英国と日本それぞれの研究者による「ヘルスケア」をテーマとする講義映像を公開しました。

英国のジョージ・リースン氏には、「健康な高齢化について私たちは何を知っているのか?」(原文: What do we know about healthy ageing?)と題し、さまざまなデータに基づき、健康寿命に関する英国の現状報告と特徴を語っていただきました。

氏は、平均余命の上昇が今後も継続することが見込まれるなか、健康的な高齢化への関心が高まっていることをふまえ、健康的な高齢化=健康余命については、「ライフスタイル」「健康」「経済状態」に依存することを指摘し、現状の英国ではそれぞれの要因による大きな格差が生じていることを解説しました。

その格差の是正が最も重要な課題のひとつであることを指摘しつつ、今後高齢者の支援やサポートにあたっては国の役割、家族の役割について検討していく必要があることを述べました。

日本のスピーカー飯島氏においては、「健康長寿社会実現へのチャレンジ~フレイル予防を軸とする健康長寿まちづくり~」をタイトルとして、年齢の経過にあわせフレイル(虚弱)予防の意識をもつことの重要性を指摘しました。フレイル予防には「栄養」「身体活動」「社会参加」の3つの柱があり、これらの活動が減少すると、フレイルリスクが上昇するという相関性を解説しました。

また、いわゆる「コロナフレイル」(コロナ禍の自粛によって起こりうるフレイル)の課題が生じており、わが国のAfterコロナ社会を見据えた新しい意識改革や取り組みに向けた展望を述べました。

海外スピーカー：ジョージ・リースン氏／
英国 オックスフォード大学
高齢者研究所 副所長



日本スピーカー：飯島 勝矢氏／
東京大学
高齢社会総合研究機構 機構長・
未来ビジョン研究センター 教授



7 | 出展社プレゼンテーション

16社の出展社の企画した、個性あふれる製品紹介・PR動画を公開しました。
(出展社プレゼンテーション参加企業・団体一覧)

・(株)ノアコンツェル	・トーテックアメニティ (株)
・西川 (株)	・(一社)日本福祉用具・生活支援用具協会 (JASPA)
・TOTO (株)	・(株)ケアコネクトジャパン
・(株)シルバー産業新聞社	・(公社)東京都理学療法士協会
・アビリティーズ・ケアネット (株)	・医療・介護ベッド安全普及協議会
・東京ガス (株)	・(株)FUJI
・(株)ミキ	・Keeogo Japan (株)
・(株)第一興商	・Chatwork (株)

8 | 広報・PR活動

H.C.R. 2021の開催を広く周知するため、出展等関係者や福祉関係施設・団体、これまでに来場いただいた方などへポスター約5千枚、DMリーフレット約46万枚を作成し、事前配布、告知しました。

また、官庁速報やiJUMPなどへの広告掲載を行ったほか、本会Facebookを活用し、年間を通してH.C.R.関連情報も含めた配信を行いました。

さらに、マスコミ関係者等に向け、保健福祉Newsの発行やH.C.R.ニュースリリースの配信、厚生労働省、経済産業省の記者クラブ等を通じて関連記事情報や取材の案内を行ったところ、会期中にテレビ局、ラジオ局による生放送を含む59件のプレス取材がありました。

次表のメディアにてH.C.R. 2021の取材が行われ、また、開催内容を含めた情報が発信されています(一部のみ掲載)。

● テレビ

BS-TBS「トレンドクリップ」	12/11
BSフジ「ビジネスボード」	11/28
中国放送	11/27
フジクリエイティブコーポレーション	12月

※その他、NHK(グローバルメディアサービス他)、日本テレビ、関西テレビ(カンテレ)の取材あり。

● ラジオ関係

文化放送「カラフルレンズ」	11/11
ニッポン放送	11/21

● 新聞、業界紙

シルバー産業新聞	10/10、11/10、12/10
シルバー新報	11/5、11/19、12/3
日刊自動車新聞電子版	11/11
毎日新聞電子版(点字毎日)	11/14
交通毎日新聞	11/15
日用品化粧品新聞	11/15
紙業タイムス	11/20
福祉新聞	11/23
物流機械新聞	11/25
日本設備工業新聞	11/25
ガラス新聞	11/29
繊維ニュース	11月
環境備品通信(新聞)	11月末
家具新聞	12/1
寝具新聞	12/5
フォームタイムス	12/15
電子デバイス産業新聞	12月号
ヘルスライフビジネス(新聞)	12月号

※その他、日刊工業新聞、日刊自動車新聞、日本住宅新聞、産業タイムズ社、週刊高齢者住宅新聞、ガスエネルギー新聞等の取材あり。

● 情報誌、機関誌、Web News 関係

月刊福祉	9/1、10/1、11/1
PR TIMES	10/14、11/4、11/15
企業PRのポータルサイト Dream News	10/21
全国重症心身障害児(者)を守る会「両親の集い」	10/25
月間ケアマネジメント	10/30
Car Watch	11/1、11/18
YAHOO! JAPAN ニュース	11/1、11/25
JCN NEWSWIRE	11/2
@Press	11/4
BIGLOBE ニュース	11/4
clccar11th	11/4
goo ニュース	11/4
LINE WORKS × ASCII	11/4
excite ニュース	11/4、11/15
くるまのニュースタイムズ	11/9
JOINT	11/9
人民網日本語版	11/11
エスマックス(Webサイト)	11/12
Believe	11/13、11/15
times-net	11/15
遊技通信 web	11/17
Auto Messe Web	11/19、11/25
展示会 Biz (Web)	11/22
Shoes Post Online	11/22、11/29
遊技通信	11/25
月刊ニューモデルマガジンX	11/26
プロパン・ブタンニュース	11~12月
デジタルビジョン	12/10
人権教育啓発推進センター「アイユ」	12/15
月刊アミューズメントジャパン	12/20
調剤薬局ジャーナル	12月号
月刊H & B リテイル	12月号
福祉介護テクノプラス	2022年1月号
東京都介護支援専門員研究協議会「けあまね」	2022年1月

他

9 | その他

H.C.R. 2021では、会場内の移動に車いすが必要な来場者に対して、車いすの貸出を行いました。

また、東京ビッグサイト青海展示棟への会場変更にとまない、敷地内および会場周辺駐車場の確保が困難であることをふまえ、車いすユーザー等障害のある方や、歩行に困難がある方などを対象とする専用駐車場を確保しました。また、専用駐車場と会場間にリフト付きシャトルバスやマイクロバスをご用意し、送迎を行いました。

…… H.C.R.Web展の掲載情報の一部を一般公開中! ……

オンラインを中心とした情報取得の需要が高まる中、さらなる情報提供の促進を図るべく、10月11日~12月10日まで開催していたH.C.R. 2021Web展の掲載情報の一部を一般公開しています(一部のコンテンツをのぞく)。

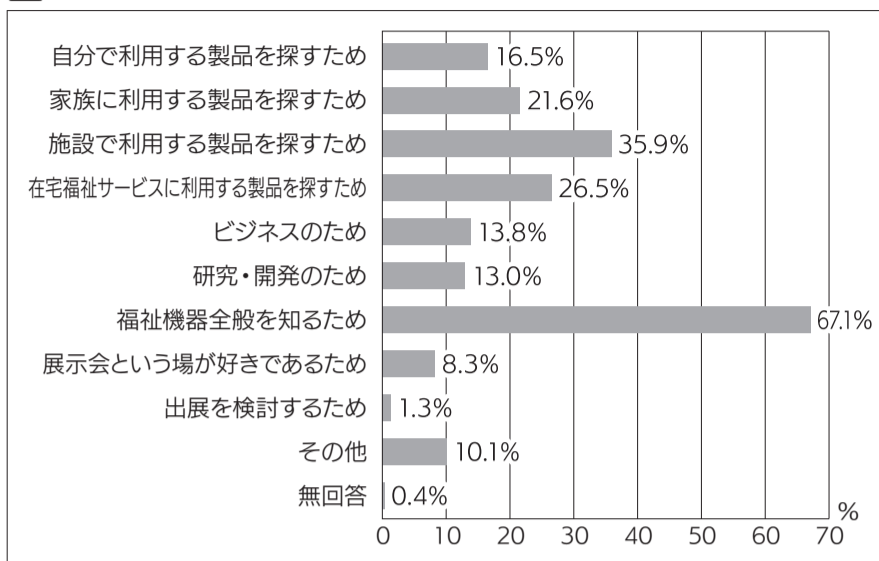
Webセミナーの閲覧や、200社超の出展社・約1,000点の製品情報の検索が可能です。閲覧にあたってのご登録は不要。無料でご覧いただけます。

H.C.R.Web展一般公開版はこちら→<https://www.hcr-web.or.jp/>
期間：公開中~2022年3月31日(木)まで

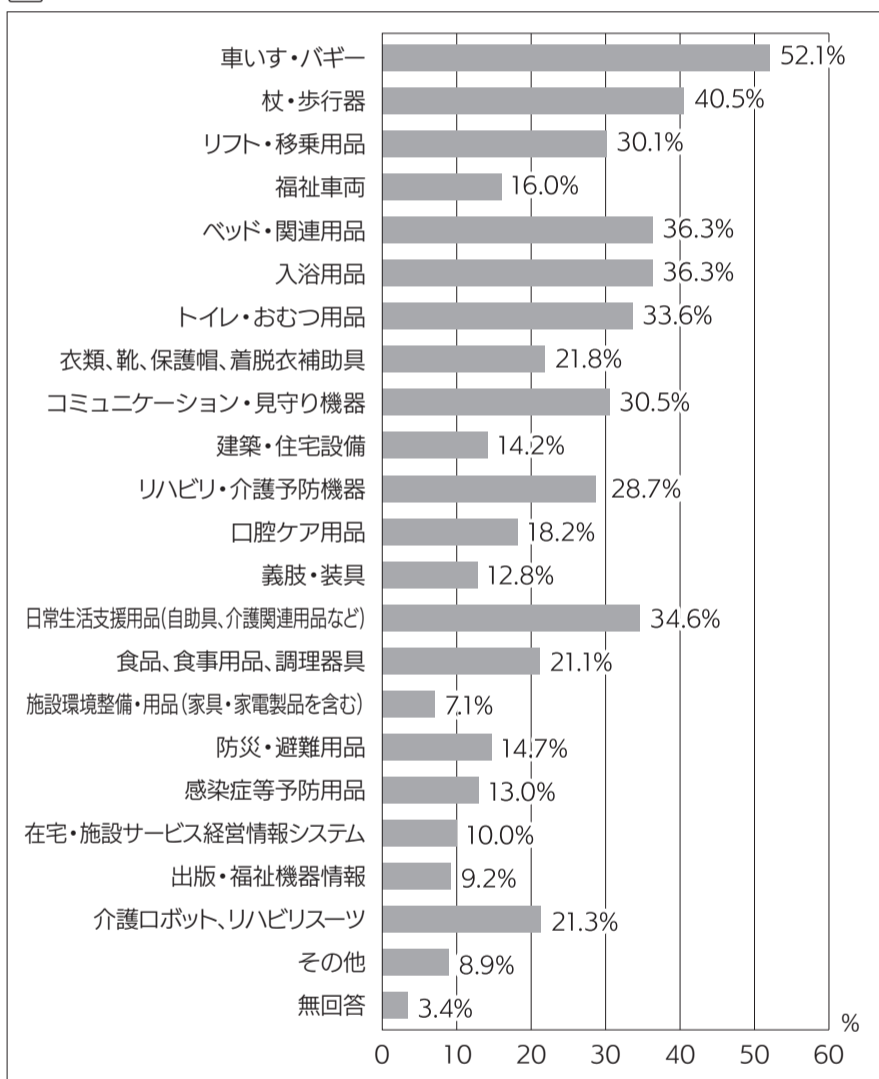


10 | 来場者アンケート結果 — 2,732件回収

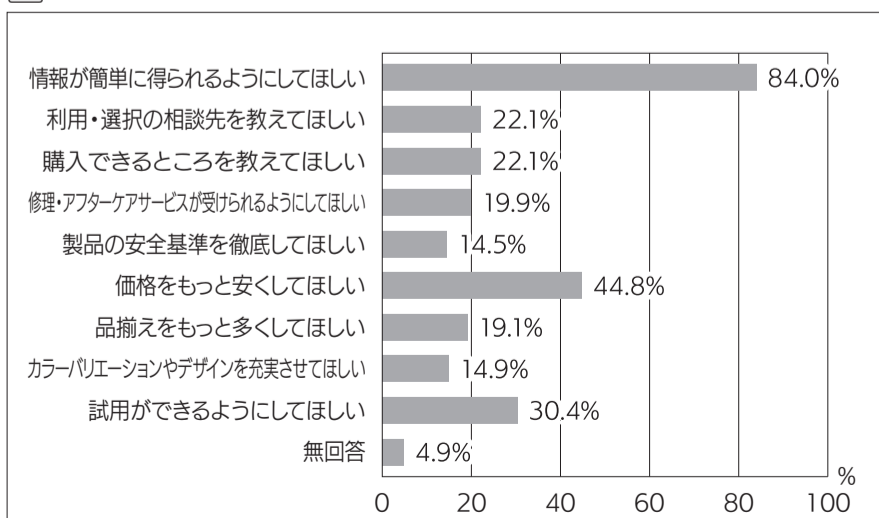
① H.C.R. 2021への来場の目的〔複数回答〕



② お探しの製品の種類〔複数回答〕



③ 福祉機器の利用についての要望〔複数回答〕



④ 福祉機器の利用についてのご意見、ご要望 (フリーアンサー 一部抜粋)

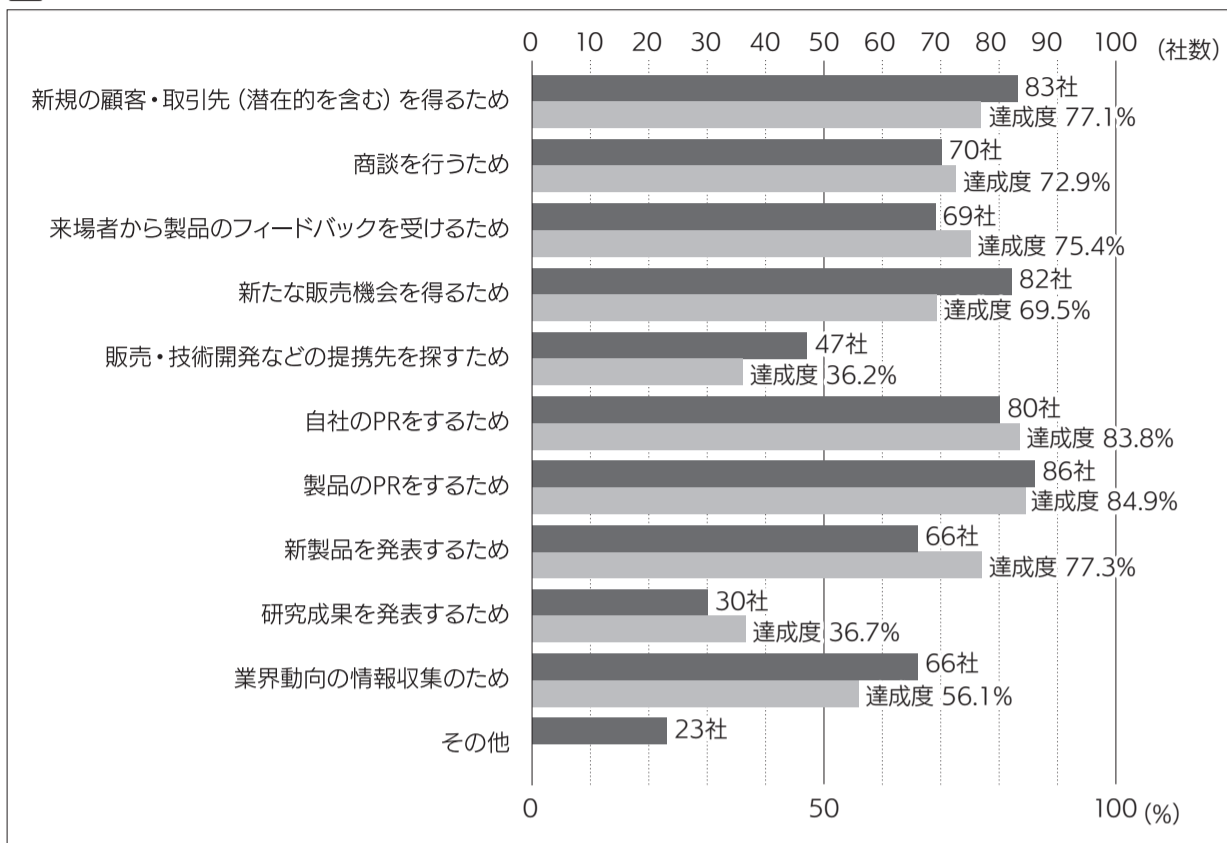
- 福祉機器の情報を得る時の手段として、ネットでは情報がまだまだ手に入りづらいように思います。ネットショッピング等で気軽に買えるようにしてほしいです。
- 出展社側が想定する(適合する)と考えている利用者像がわかるようにしてほしいです。適・不適の判断の目安となるようなデータを知りたいです。
- 補助だけでなく、利用者の自立を促し利用者自身の力を活かして使用できるような製品を望みます。
- 「福祉機器」が障害者や高齢者のものであるという枠にとらわれず、ユニバーサルデザインなど一般品としても使えるものをもっと広めて普及してほしいと考えます。
- コンパクトで持ち運びやすいことと、機能が分かりやすく簡単な機器であることを望んでいます。
- 子ども用機器の開発・普及がもっと進んでほしいと考えます。
- 金額で購入をあきらめてしまう時も少なくないので、上限価格に合わせて対応していただけるような機能と価格のバリエーションがあると嬉しいです。
- 実際に触って、持ってみないとわからないことが多いので、H.C.R.以外でも身近に体験できるような展示室などがあると良いと思います。
- 保険の適用可否や、何かしらの支援が利用できるのかなどもあわせて情報の提供をしていただきたいです。
- 高額な製品は特にリース対応できるものを増やしてほしいです。
- 重度障害があっても座位でトイレに座りたいので、そうした機器の開発を期待しています。
- 短期記憶障害にも有効な、コミュニケーションツールや記憶を助けるツール等を知りたいです。
- おしゃれなデザインのものがもっと増えると嬉しいです。
- 購入後のアフターサービスをもっと充実させてほしいです。
- リフト等使用ができるかどうか試したいのですが、手軽には試せないのもっと試せる機会を増やしてほしいです。
- 福祉機器の機能は複雑なものが多くて使いこなせないと感じます。より簡単に、安くしてもらえると嬉しいです。
- 施設だけでなく、自宅で介護している人が低価格で利用できるものをもっと増やしてほしいです。特に介護ロボットなど。
- 機器を活用してレクリエーション等の体験ができると良いと感じました。高齢者の自立を支援するようなレクリエーションの充実を期待しています。
- IT系やシステム系の福祉機器が以前より増えていて、福祉機器の進歩を感じました。

⑤ H.C.R.についてのご意見、ご要望 (フリーアンサー 一部抜粋)

- H.C.R.に毎年参加していると、機器のトレンドが分かるようになりました。今回も新しい技術や、最先端の機器にふれたり体験できる場となり、刺激をもらいました。
- 車いすユーザーでも見やすかったです。実機も多く体験ができ、いろいろな情報が得られました。
- 多くの福祉用具を一度に見て比べてみる事ができる場として、H.C.R.は貴重な機会だと感じています。また、企業と顧客ニーズについて相談でき、非常に有意義な時間を過ごせました。
- 介護食の出展がなかったことが残念でした。コロナが終息したら、例年のように試食などもできるようにしていただきたいです。
- コロナ禍や会場変更もあって、例年に比べると出展社が少なくものたりなさを感じました。また以前のように東展示ホールでの開催を期待しています。
- 昨年はWebのみの開催でしたが、画面上で見ただけではわからないことも多く、やはりリアル展で実際に見て、体験することで得られる情報があると感じました。
- 海外の出展社が少なかったです。H.C.R.は海外製品を直接みられる数少ない場ですので、次回以降コロナが終息してまた海外出展社も多く見られることを期待しています。
- Web展の情報をさらに充実させてもらえたらと思います。
- 会場がコンパクトで、導線もわかりやすく、ゆっくりとブースを回ることができました。規模感もちょうど良かったと感じました。
- 毎年新しい製品が出ていて、興味をひかれます。現在利用を考えていないものでもH.C.R.で知ることによって今後参考になるので、貴重な場であると感じます。
- 昨年中止になったぶん、リアル展の開催を楽しみにしていました。会場がコンパクトになり、ひとつひとつのブースが見やすくて良かったです。
- 選び方・使い方セミナーに参加しました。機器の選定のポイントがとてもわかりやすく、参加して良かったです。
- 事前登録手続きの際、入場証をプリントアウトするのに手間がかかりました。障害のある人や高齢者など、Webに慣れていない人への配慮として、別の入場手段についてもさらに工夫していただきたいです。
- 事前入場登録制によってスムーズに入場できました。感染予防対策、昼食場所、トイレ等にも行き届いた配慮が感じられました。
- 肢体不自由な障害児とともに参加し、たくさんの車いすを試乗させていただきました。各メーカーを一度に比較できることができ、収穫となりました。
- 「こうゆう機器がほしい」と考えていたものに近い機器を見つけることができ、とても満足です。
- 業務上で支給を決定する補助装具や日常生活用具についての学びを深めることができました。
- 子ども広場のように、コンセプトやテーマが決められている展示がわかりやすく良かったです。他にもコミュニケーション機器をテーマとした企画をしてほしいです。
- 現在流通している機器と、未来に向けて開発されている機器の両方が見られ、新たな発見や学びが得られました。
- 駐車場やUDトイレなど、施設内の情報提供をさらに充実してほしいと思いました。

11 | 出展社アンケート結果 — 出展社89件回収

① H.C.R. 2021への出展の目的と達成度〔複数回答〕



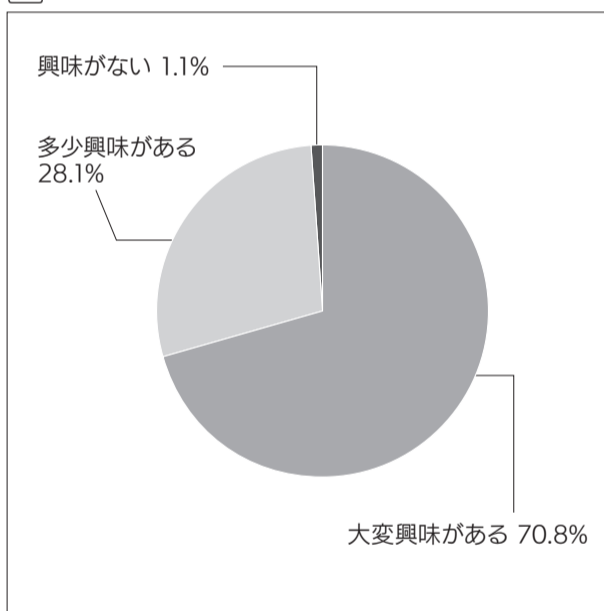
達成度：「i. 達成できた」「ii. 多少達成できた」「iii. あまり達成できなかった」「iv. 達成できなかった」の4択のうち、i・iiの割合の合計



その他の例

- ・ 出展社同士の情報交換
- ・ 卸会社との親交を深める
- ・ 既存顧客との関係性向上
- ・ リードの獲得
- ・ 業界動向の情報収集のため
- ・ 書籍の販売実績を高めるため
- ・ 来場者への機器の重要性周知

② H.C.R. 2022への出展予定



③ ご意見、ご要望 (一部抜粋)

1. 会場が青海展示棟になったため、来場者が会場内全体を周りやすいようでした。出展社としても個別に対応ができ、一人ひとり濃い内容のお話ことができました。
2. コロナ禍になってはじめての開催で不安もありましたが、多くの来場者の方にブースに立ち寄っていただけました。
3. H.C.R.を1年の内でPRの場として軸に置いています。次回もぜひ出展したいです。
4. 2年ぶりとなるリアルな展示会に、来場者も出展社も「待っていた」というような熱気と活気を感じました。
5. リアル展とWeb展の連動をもっとわかりやすくしてほしいです。
6. SNSをさらに活用した広報を期待したいです。
7. 製品開発を一緒に実施していただける企業に巡り会うことができました。
8. 福祉用具レンタル事業所の担当者と直接話ができ、販売のためのヒントを得られました。
9. コロナ禍で製品を直接対面で紹介できる機会がなかったのですが、H.C.R.で多くの人に見ていただける場となりました。
10. 介護・福祉施設等関係者や、遠方からの来場者が少なく感じました。コロナの終息後、戻っていただけるようにいっそうの広報をお願いします。
11. 会場規模の縮小や、来場者数が例年と異なっており、例年ほどの効果は見込めなかったと思いました。
12. 福祉機器を必要とされる利用者や関係者などから製品に高評価をいただくことができました。また、改善につながる話もでき、有意義な時間となりました。
13. エンドユーザーに直接、商品要望について調査することができました。
14. 全体の来場者数は減っていますが、会場が縮小したぶん個々のブースに立ち寄っていただける機会が増えていたように思いました。
15. 次回は東展示ホールに戻るとのことなので、例年以上の集客に期待しています。

デンマーク福祉機器展示会 Health&Rehab Scandinaviaレポート

2021年11月にコペンハーゲンで開催されたHealth&Rehab Scandinaviaは、個人・施設・病院を対象とした障害者・高齢者向け福祉機器・サービスを紹介する、ヨーロッパで最も古い展示会として知られています。その歴史は1960年代にさかのぼります。

展示会のオーナーは、デンマークの製造メーカー団体「DANISH.CARE」(旧：Danish Rehabilitation Group)。来場者に等しく最大メリットを提供するとする展示会の運営方法は、DANISH.CARE委員会(ザ・ボード)と10団体10人で構成されるアドバイザーボードによって、長年にわたって築きあげられてきました。

今年の出展社は200社強。来場者は、コロナ禍の影響を受け約6,000人と前回をわずかに下回りました。毎回恒例の新製品表彰には約40製品がエントリーされ、2021年の大賞1製品が選出されました。

さらに、200におよぶセミナーが開催されました。

なお、「START UP ZONE」の名称でCARE TECH CHALLENGEによる新企画が開催されました。これは社会事業分野の新たなサプライヤーとなる有望な発明家による新製品・新サービスを公募し表彰するイベントでした。

同展示会への出展社の反応はおおむね好評で、2年後の次回開催に期待の声が寄せられています。

次回は2023年5月23日から25日の間、開催される予定です。

同展示会の詳細は、<https://www.health-rehab.dk/> (英語ページあり) を参照ください。

レポート / H.C.R.欧州地域コーディネーター ベン・アポロ・ラスムセン氏

